TATEYAMA NOTAM '96-Vol.1

Hummingbird P.G.C Communication Note.



クラブ定期総会開催!

富山県フライヤー連盟総会開催!大和氏が理事長に選出!!

らいちょうバレーカップ第1戦、オープンカップ開催! クラブ員の健闘光る!!

'96 セーフィティーセミナー

会員探訪 高林 小百合

クラブ員ナショナルポイント戦結果速報!!

Team - Cの大会日記 InformatiOn

クラブ定例総会開催される

去る4月27日、山野スポーツセンターにおいて、平成8年度ハミングバードPGC定例総会が開催された。当日は委任状44名、出席38名、規定の過半数を十分に満たしての総会成立となった。 議案も会員の皆さんのご協力により無事承認され、平成8年度体制がスタートした。

なお、総会で承認された内容は、事前に配布した資料の原案どおりであった。また、関沢氏より平成7年度の事故概要についても報告がなされた。

総会議事内容要旨

- 1. H7年度会務報告
- 2 . H 7年度会計報告・監査報告
- 3. H8年度予算案
- 4. H8年度活動計画案
- 5 . H 8 年度役員人事案
- 6 . 会則改正案
- 7. H7年度事故概要



議事進行に努める役員

富山県フライヤー連盟総会開催!大和氏が理事長に選出!!

4月28日、富山県フライヤー連盟の94年度、95年度分総会が開催された。県連の総会は、去年は開催されておらず、今回2年分をまとめての開催となった。参加者は好天?を予想してか委任状による出席扱者が多く、殆どの人は山野を見下ろしながらフライトに興じていたのではないだろうか?今回の総会で特に注目を集めたのが役員人事であった。今年度より理事長に大和隆三氏、事務局に斉藤直行氏が理事会で選出され、総会においても無事承認された。これにより事実上の連盟運営はハミングバードが担うことになる。

これからの皆さんの協力が、県連運営の鍵を握ることになるのは間違いないだろう...。

* 総会議事内容要旨 *

- 1.94年度会計報告 (全会一致にて承認)
- 2.95年度会計報告 (全会一致にて承認)
- 3.96年度活動計画 (全会一致にて承認)
- 4.96年度役員人事 (全会一致にて承認)



林 前県連理事長

らいちょうバレーカップ第1戦、オープンカップ開催! クラブ員の健闘光る!!

毎年恒例のコンペ、らいちょうバレーカップが今年も5月3日~5日(6日予備日)の日程で開催された。今年はナショナルポイント対象のナショナルクラスに加え、オープンクラス1、2が設けられ、

初心者からベテランまでが参加出来る大会となった。

天候の方はあいにく3日のみが好天で、それ以外は競技が出来ずオープンクラスは1本のみの成立で 勝敗が決した。しかし、ナショナルクラスは予備日の6日に競技を行い、2本の競技成立で幕を閉じた。

さて、今回のらいちょうバレーカップには、クラブ員も多数参加し春の立山で己の技術を競った。オープンクラス1では、キャッツクレードルによる競技で見事フルパイロンしながらもテイクオフ順で4位、5位となった佐藤氏、塚本隆氏を始めとした4名がエントリーした。また、クラス2では16.8 Kmのスピードランでダントツの速さで優勝した高林小百合選手を始め3名がエントリーした。

注目のナショナルクラスは、Team-Cを始め9名がエントリーした。初日はコンディションにも恵まれ、50Km以上のスピードランが行われた。レース前半はトップで出た阪本選手がレースを引く展開となったが、そこはポイント戦、百戦錬磨の精鋭達にあっという間に置いていかれた。しかし、昨年の日選を再現するかの如く、午後からコンディションは急速に垂れはじめ、尾根を越えてゴールする者はいなかった。



クラス2優勝の高林選手(写真中央)

予備日の6日、雲低はメチャ低い。しかし競技は行われた。32Kmのレースto ゴール。しかし、トップ数名の順位はほとんど入れ替わることなく、初日から飛ばしたカッシーこと柏倉選手が優勝、扇沢選手が準優勝を飾った。

次回は8月上旬にらいちょうバレーカップ第2戦が行われる。次回もふるって 参加しようじゃあーりませんか!!

大会結果(クラブ員)										
クラス 1										
	4	7 3	佐藤		1 0 0 0	I				
	5	2 1	塚本	隆暢	1 0 0 0	XYON				
	9	6 0	井上	文一	8 2 0	SuperSPACE				
	1 0	1 9	吉川	知仁	8 0 0	ENERGY				
クラス 2										
	1	6 1	高林小百合		1 0 0 0	TOPAZE				
	8	5 9	福原	政秀	7 4	ORION				
	8	7 6	出村	康子	7 4	FLHIYER				
ナショナル										
	2	2	扇沢	郁	1839	SECTOR				
	1 6	2 5	斉藤	直行	1 2 7 0	SECTOR				
	2 3	8 3	藤野	光一	1 1 8 0	GENESIS				
	3 0	7 8	阪本	猛	9 9 1	GENESIS				
	3 4	7 7	本馬	竜夫	8 1 7	ENERGY				
	3 8	7 6	高松	俊夫	6 8 9	ATIKS				
	4 6	7 5	松田	勲	5 4 1	SPHINX				
	4 9	8 6	高井	博昭	5 0 8	MERAK				
	7 6	8 2	江上	祐司	0	GENESIS				

96 セーフィティーセミナー

Report:I.Matsuda

待ちに待ったフライトシーズン到来!しかし、その前に思い出して下さい・・・。と言う訳で、今年 も5月26日(日)にセーフィティーセミナーが開催された。

午前中は、JMB立山パラグライダースクールの関沢氏を講師に招き、パラグライダーの潰れのメカニズム、潰れのラム圧、種類などの講義を受けた。「昔なんか聞いた事あったよなあー」と思いつつ、みんなから「膿んでいる!」やら「腐っている!」と言われている耳を傾けていたのだが、時間とともに思考能力が低下し、考えると頭痛信号を発する状態に陥るまでに至ったため、リフレッシュしようとT氏とひそひそ話を始めた。

(M氏とT氏の会話)

M・・「昨日、展望台まで歩いて登って4時間40分も飛んだ奴おんがんじゃ」

T・・「そんな条件いかったがけ?」

M・・「なあーんよ、すごい荒れとってこわかったじゃ」

T・・「その条件で4時間け・・・?」

 $\mathsf{M} \cdot \cdot \mathsf{r} \cdot \cdot \cdot \mathsf{J}$

T・・「どっか切れとるがじゃないが?」

などと話しているうちに午前中の講義は終了した。関ちゃん、ゴメンナサイ・・・。

午後からは、大和氏、関沢氏、建部氏、鎌仲氏のそうそうたるメンバーによるツリーラン実地講習を 行った。スクール生が木に登ってセルフビレーを取り、ザイルを下から引き上げ、エイト環を使っての 降下訓練をほぼ全員が体験した。

パイロットは、ユマール、アブミを使っての木登りの訓練。これは、ツリーラン時の救助や機体回収 に必要な大切な技術だ。ニンジャ(機体の名前ではない)のように木に登るやつ(建部氏)、蝉になっ てしまう人(?)など、各自自分のスタイルに合った登りかたで楽しんでいたようだ。

一見木に登ったり降りたりする事は、フライトには関係ないように思われがちだが木と仲良くなることで、自分のフライトレンジが広がるのではないだろうか?機会があれば進んでツリーラン回収に参加し、目で、耳で、身体で体験してはどうだろう?





ツリーラン講習の実地訓練に励むクラブ員・スクール生の皆さん

会員探訪「気になるPILOT!」



優勝はたまたま運がよかっただけ!

- 高林…やっぱり優勝出来た事はすごく嬉しいです。でも、一緒にスクール時代に飛んでいた人達が ナショナルクラスで飛んでいる事を思うとちょっと複雑な気持ちになります。
- TN...高林さんは去年のトミーズカップクラス2第2位、そして今回は優勝と、大会になると良い 思いと言うか成績を出しているんですが、何か秘訣みたいなものがあるんではないですか?
- 高林…ないです。それはたまたま運が良かっただけです。それだけです。(笑)
- TN...今回のタスクを説明してください。
- 高林…クラス2のタスクは、極楽テイクオフの後に金山(リフト)・クワッド・3番・パラダイス食 堂・金山・メインライディング(ゴール)のレースtoゴールでした。
- TN…高林さんはこのタスクでダントツトップだった訳ですが、やはり地元の強みが大きかった?
- 高林…なんかこんな堅い話ばかりでいいのかな?(笑)やっぱり地元ですから、地形もわかってるしその要素が大きいと思います。

「気軽にどうぞ!」って感じだったのでパラにした!

- TN...大会の話題はこれくらいにして、なぜパラグライダーを始めようと思ったのかその辺の動機なんかを教えて下さい。
- 高林…根本的な動機は「飛びたかった」です。こんなつまらない答えでいいのかなあ?前からここで (らいちょうバレー)パラをやっているのは知っていて、現実的じゃないけど飛びたいねって 言うのは思ってたんですよ。それで、何かいつもの生活と変わった事をやりたいっていうのは 思ってて、仕事が忙しいとか仕事が変わったりとかで、そういった事が一段落した頃に何か始 めたいなと思っていました。それでダイビング、海の中へ潜るやつか空を飛ぶパラグライダー のどっちにするか最初悩んで、過去にシュノーケリングの経験があったので、あれだけでも浮 遊間や景色がきれいだったので面白そうだったのだけれど知り合いに「最初に器材を揃えたら パラグライダーと同じ位かかる(お金)わよ!」って言われたんです。それで、パラの方はど うかと思って電話して聞いたら「気軽にどうぞ!」って感じで、機体とかも最初は貸してくれ

るって話で、「それじゃ、はじめてみようか!」と始めたらそのまま病み付きになったという ことでしょうか!

- TN…その時の電話の営業センスも良かったんでしょうか。ところで、パラ以外の趣味とか今までのめり込んだ事?があれば聞かせて下さい。
- 高林…うーん、趣味って言うか、パラを始める前の私って言うのは学校で言うなら文化クラブ系の人間だったんです。(笑)
- TN...なんかわかるような気がする。(笑)
- 高林…美術館へ絵を見に行くとか、レコードを聴くとかそんな感じだったんですが一時期バレエ、このバレーボールじゃなくて。

TN...踊るバレエ?

高林…そうそう、大好きで、自分は踊れないんだけどすっごい好きで、もう見まくっとった時期も あって。

TN…そんな芸術的センスがあったんですか?

高林…ないない!それはないです!

TN…やっぱりそうとう印象が強かった?

高林…そうですね、何であんなにのめり込んでいたのか・・・。でも、自分はただ見てるだけという 不満はあったような気がしますけど。

TN…バレエってそんなに魅力があるもんですか?

高林…普通バレエって言うと「白鳥の湖」とかのクラシックを連想すると思いますけど、モーリスレジャールって知らない?

TN...???

高林…知らないかなー、知ってる人は知ってるんだけど、ホントのクラシックバレエと違って、出てきた時に人間の身体の美しさ、そう言ったものが目の前で繰り広げられていた訳ですよ。それに感動したんですよ。

TN…やっぱ聞いてみないと人ってわかりませんね。

高林…高校時代は美術部で絵を書いてたりとか。

TN…芸術系じゃないですか。やっぱセンスがあるんじゃないですか。

高林…でもそこでも、なんか、はまりきらない?と言うか。

TN…なるほど。

高林…歌とかも歌っていたんですが、第九を歌う会とかそういった所で・・・。

ナショナルポイント戦に出てみたい!

TN...なんだかんだと結構多才じゃないですか。その中でもやっぱりパラが面白いんだろうと思いますが、これでどれくらいの期間と時間を飛んでますか?

高林…約2年で、飛行時間は52時間くらいかな?

TN...最近は特に長く飛んでいますけど、機体も変わった(メラック96)そうなので今後ますますフライトが楽しくなりますね?

高林…いずれはやっぱりナショナルポイントの大会に出たいな、って思ってます。

TN…女性コンペティターとして田中美由喜さんを目指す訳ですね?

高林…いえ、そんな大それたことは思ってませんが、やっぱり大会のあの緊張感が好きなので頑張り

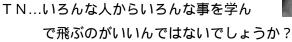
たいと思ってますけど、何しろ体力のなさとこの年齢が私の最大のネックなので。

TN…年のことは聞かんまい!!

高林…聞かんでーっ!!

TN…では、パラで尊敬する人は?

高林…尊敬する人はたくさんいてわかりません。みんなが私の先生だし、美由喜さんや扇沢先生なんかはもう雲上の人って感じだし、やっぱり身近にいる関沢さんや恵子ちゃんがいたから今の私があるのでしょう。





扇澤さんとツーショット!!

高林…まだまだ機体に乗せられているところが多いと自分でもわかっているんで、いい気にならないで少しずつ上達していけたらいいと思ってます。

TN…じゃあ、これからも安全で楽しく、そして怪我もなくパラをエンジョイして田中美由喜さん目指して頑張って下さい。どうもありがとうございました。

@ プロフィール @

氏名 : 高林 小百合 Sayuri Takabayashi

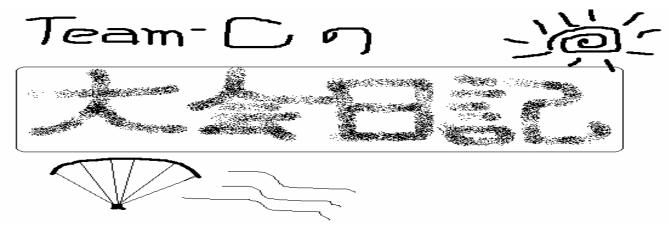
年齢: 女性には失礼な質問でした!!

飛行時間: 52時間

使用機体: メラック96(最近乗り換えた) 目標: ナショナルポイント戦に出る事

クラブ員・ナショナルポイント戦結果速報

氏名		使用機体	Coo 第2戦	らいちょう1戦	尾上カップ	ホルンバレー
扇澤	郁	SECTOR		2 位	4 3 位	1 位
斉藤	直行	SECTOR	2 1位	1 6 位	1 6 位	
藤野	光一	GENESIS		2 3 位	8 2 位	5 5 位
阪本	猛	GENESIS	5 1位	3 0 位	4 1 位	5 0 位
本馬	竜夫	ENERGY	3 7位	3 4 位	7 6 位	6 5 位
高松	俊夫	SECTOR		3 8 位	7 0 位	
松田	勲	SPHINX		4 6 位		
高井	博昭	MERAK		4 9 位		
江上	祐司	GENESIS		7 6 位		



Report:K.Fujino

昨年に結成したコンペチームが、今年から本格的にナショナルポイント戦に参戦しています。これから それぞれの大会においてのエピソードや反省点等を交えて皆さんに紹介したいと思います。どうかよろ しくお願いいたします。

私たちは、ハミングバードPGCコンペティションチーム「Team-C」として、今年から正式にナショナルポイントにエントリーし活動を始めた。現在のところ常に大会に参加する選手としては藤野光一、阪本猛、本馬竜夫の3名である。阪本、本馬にいたっては4月のCoo第2戦かららいちょうバレー第1戦、尾神カップ、ホルンバレー第1戦と既に4戦をこなしている。これら4戦を振り返り、大会によって得られたもの、反省点、課題などを述べてみようと思う。

フライト概況

どの大会に於いても、Team‐Cのフライトはそこそこのレベルでフライトしていたように感じられた。Cooでは渋い条件に阻まれ、また、集中力が長いウェイティングで途切れたせい?!もあり、良い状況とは言い難いが、今年最初のナショナルポイント戦で、しかも初めてのエリアと言うことを考慮すればまあ納得のいく内容ではなかったか?地元立山では、いきなり40km以上をフライトしてしまうなど地の利を生かしたフライトも見られ、今後の地元での活躍が期待できそうだ!!

尾神でも、初めてのエリアでありながら、強風に翻弄されつつ各自のフライトを粘り強く続けた(特に本馬選手のフライトは素晴らしかった!)ことで自信を深めた様であった。また、クラブから参加していた高松氏のフライトも大いに参考になり、おじさんパワーに見習うべき点が多いことを改めて感じた大会でもあった。

ホルンバレーでは、立山や尾神とは違ったBIGタスクにビビリながらも雄大な高山エリアを満喫したフライトであった。

教訓1.粘りの飛び

尾神では、高松氏や本馬選手の粘りの飛びが光った。特にこのエリアは、平地にある牛舎パイロンをとった後、山に戻るわけだが、高度が低く何度も降りそうになる。私も地上まであと20mという所でサーマルをヒットし、地獄から這い上がったと言う貴重な体験を何度も?している。立山では間違いなく降りてしまう高度であっても粘って上げ直すことが十分可能であることを身をもって経験した。

それから今更言うことではないが、大会はとにかく飛んでいなければ話にならないことも付け加えたい。高松選手はしぶとく飛んでタスクをこなしていた。あせってまわることはないのだ!! とにかく空中に留まることが大切だ!!

教訓2.装備の点検は入念に

また尾神での出来事。大会初日のこと。この日のタスクは尾神岳山頂をとって牛舎テイクオフを3周した後小学校、ふれあいセンターを2往復してメインランディングのゴールであった。私は2回目の牛舎をとって尾根の戻りセンタリングしていた。その時突然バリオが沈黙した。どうやら電池が切れたらしい。昨日確認した時にはまだ残量があったと思ったのだが・・・。ここからケツバリオで飛ぶことになってしまった。尾根にいる時は何とかなるが、グランドに出るとサーマルを捕らえきれない。やはりバリオなしでは飛べない身体になっていた。今日は予備バリオも持っていない。状況は最悪であった。三角パイロンは何とかこなしたものの、小学校をとったあとに弱いサーマルを捕らえきれず敢え無くランディング。おまけに渡されたフィルム感度がASA100なのにいつものASA400のまま写真をとっていたのに気づかず、現像ミスまでやってしまった。もはや救いようがない。点検は十分に行うべきであると痛感した。(バリオは電池の線が内部で断線していた。勿論すぐに半田付けで修理しました)

教訓3.セクターミスに気をつけろ

いつもわかっていることだが、パイロンのセクターはよく確認しなければならないだろう。立山、尾神、高山ともにセクターに関するミスを我々は数多くやっている。セクターだけでなく、ヘルメットの撮り忘れ、キャノピーの撮り忘れ、ランディング証明の撮り忘れなど、悔やみきれないミスを重ね、ポイントをフイにしてきた。一番痛いのはセクターミスだ。高山では、パイロン撮影時のセクターチェックが甘いのか初めて見るパイロンで事前チェックが不十分だったのかセクターアウトの宣告が多かったのである。ナショナル戦に参加する以上、セクターミスは絶対にやってはならないミスである。もう一度パイロンの撮影練習をしなければならないだろう。

教訓4.早く出ろ

高山では、エリアをよく理解していないこともあり、我々はいつも動きが遅かった。わずかのタイミングでサーマルに乗り遅れたり、トップから数テンポ遅れで良いタイミングで回れず苦労する羽目になってしまった。その中でも阪本は比較的動きが早く健闘した。どのような大会でも早く出て早く動くのは基本であると再確認できた。

教訓5.クロスハンドは必須!!

いつも言っているが、強風でのテイクオフは立山にいる限り余り必要がない。しかし、Соо、尾神、高山ともに強風でのテイクオフを余儀なくされた。テイクオフ出来なければ競技に参加することもままならない。我々はもっとクロスハンドでの練習を積むことが必要だ!! (高山では時折 1 0 m / s を超える強風の中でのテイクオフとなった)

楽しいこと

さて、教訓のあとは大会の楽しいことも書いておこう。何といっても普段のフライトでは絶対に飛ぶことが出来ない空域を飛び、途中で降りても回収に来てくれる、(尾神は違うけど)これは絶対に楽しい!!参加してみる価値は十分ある。

それから、フライトが終わった後の温泉も格別である。よく来ている常連選手から穴場を教えてもら

って一日の疲れを癒すのは大変気持ちがいいものだ。その時、他の選手から有益な情報を仕入れること も可能。

パラグライダーがアウトドアスポーツである以上、生活もアウトドアで統一するのがコンペティターと言うもの?当然寝泊まりはテント。ただし、食事は外食でしたが十二分にキャンプ生活をエンジョイしてきた。これからも大会ではこのスタイルが続くんだろうなー。

今後について

今年はこの後、立山、獅子孔、富士見の大会があるが、全て出られなくても各自の出られる大会で自分の納得の行くフライトをすることに主眼をおいてトレーニングしていく予定だ。特に立山は地元での第2戦でもあり、秘策を練っての闘いになりそうだ?! これからもどんどんトレーニングフライトを行う予定なので、参加したい人は気軽に声を掛けて欲しい。(ただし、対岸を使ったり美女平へ行ったりするのでゴールドパス所持者に限らせていただきます)

P . S

高山の大会では、はるばる横浜からダミーフライトに来てくれた江上君が、素晴らしいフライトを見せてくれました。



Information

エリア利用料改定に!!

安全管理委員会は、平成8年度よりエリア利用料を次のように改定しました。更新の際はご注意下さい。

新・エリア利用料

・1日パス ¥1,500 ・1ヶ月 ¥5,000 ・1年 ¥15,000 1年パスに限り、クラブ員は¥10,000となります。

'96ヨーロッパツアー参加メンバー募集中!!

日程 9月20日~9月29日頃(10日間)

価格 ¥450,000~400,000(安くなると思う・・・。)

定員 6名~10名(集まり次第締め切ります)

フライト場所 フランス アヌシー、ミューシー

スイス ベルビエ 等

締め切り 7月7日(少しでも早く申し込んで下さい!!)

申込先 JMB立山パラグライダースクールまで

第2回トミーズカップ開催予告!!

昨年は天候不良で開催出来なかった第2回トミーズカップ。今年こそは!と意気込んで来る7月29日(日)に開催致します。 競技内容は恒例となった水運びレース&ターゲット、そしてパイロンレース、今年から年1回の開催になった分、内容も賞品もギューっと凝縮してスタッフー同張り切っております。会員の皆さんの参加をお待ちしております。

第2回 トミーズカップ開催要綱

主催: ハミングバードパラグライダークラブ トミーズカップ実行委員会

協力 : JMB立山パラグライダースクール、 立山パラグライダー安全管理委員会

日時 : 1996年7月29日(日)

場所 : らいちょうバレースキー場 立山フライトエリア

競技 : クラス 1 パイロンレース (データバック付きカメラ必要)

クラス2 水運びレース&ターゲット

参加資格: ハミングバードPGC会員またはJMB立山スクール生であること

クラス1 JHF NP証以上(インストラクターの許可必要)

クラス2 JHF B証以上

参加費 : ¥2,000程度を予定

賞品 豪華賞品多数用意!!その他 バーベキューもあります。ふるって参加下さい。

求む!あなたの貴重な体験レポート!!

会報編集部では、「ヒヤっとしたあの瞬間!ヤバかったあの体験!」と題して皆さんのフライトにまつわる体験レポートを募集します。これは、単に冷やか し記事ではなく、どうしてそうなったのか?そうならずにすまなかったのか?こんな事が現実に起こる!と言ったことを紹介することで、安全意識を更に高めてもらうことを目的としています。実名が嫌ならば匿名でOK。秘密は厳守致します。なお、レポートには

- 1.その時のあなたの技量(技能証、経験年数、飛行時間など)
- 2. 気象条件
- 3.機体(初級機、中級機、上級機、コンペ機、スポーツグライダーなど)
- 4. 具体的な状況
- 5. そうなったと思われる原因(あなたが思う原因を記入)

を書いて下さい。 編集部ではこれらの内容について議論し、その内容とともに掲載します。

(議論するメンバーはスクールインストラクターや選手、一般フライヤー)

皆さんのレポートをお待ちしています。

編集後記 96 Vol.1

今年から正式に広報担当となり、会報も装いを新たに、「TATEYAMA NOTAM」として再スタートしました。これは、NOTICE TO AIR MENの略で「航空情報」のこと。航空業界では運輸省航空局が管理発行している航空機運航上の情報を指しますが、それにあやかって命名しました。内容も一新し、面白い会報を目指して頑張りますのでよろしく!!

総会が終わって会報ネタをあれこれ物色していたのもつかの間、コンペの季節が到来してしまった。今年は立山、尾神、高山とほぼ毎週の如く大会に出ているが結果は冴えず・・・である。おかげで会報も大幅に遅れてしまって申し訳ないやら情けないやら。とにかく今年はどっちも気合入れていきまっせ!応援よろしくお願いします。(Pikaichi)

見習いで広報の手伝いをすることになりました。よろしくお願いします。ところでどうして梅雨は毎年やって来るんでしょう?今年は特につらい気がします。今年からコンペを本腰入れてやってるのでよそのエリアで飛ぶことが多くなったんですけど、やっぱり立山はいいですね、面白いです。もっと立山で飛びたいんですけど、このところ週末はあまり良くないです。んーっ、もっと立山で飛びたいようっ!!

でも梅雨が明けたらすぐまたコンペが始まって、立山に来れないんだ、きっと…。(もう)

話題の提供、意見、原稿の投稿は・・・

FAX (0762) 40-6692 藤野 光一宛

(0764) 51-1551 JMB立山パラグライダースクール内

ハミングバードPGC事務局広報宛

ファイルで投稿希望のかたは・・・

3.5インチFD(1。2Mフォーマットまたは1。44Mフォーマット)されたものに、

TXT形式で保存されたファイルを事務局へお持ち下さい。

電子メールで投稿希望の方は・・・(インターネット、BBS経由)

以下のアドレスへメールして下さい。

QZI01576@niftyserve.or.jp 藤野 光一宛

TATEYAMA NOTAM

タテヤマノータム: 第1号 1996年7月1日発行

編集発行人 藤野 光一、阪本 猛

発行所 ハミングバードPGC 広報委員会会報編集部

事務局 〒930-14

上新川郡大山町本宮らいちょうバレースキー場 レストランふじ内 JMB立山パラグライダースクール ハミングバードPGC事務局